



十島村立 平島学園

児童生徒数 13 人
学級数 5 クラス



《テーマ》他者と協働し、未来へ進む児童生徒の育成 ～人権尊重の視点を踏まえた授業づくりを通して～

研究に当たって（テーマ設定の理由）

本校は、山海留学やIターン家庭の児童生徒を積極的に受け入れている、複式学級を併設する極小規模校である。地元以外の子どもの数が圧倒的に多く、本校に転入する前の経歴や動機も様々である。

このような児童生徒に対して、他者と協働しながら、自己実現を叶えられる児童生徒を育成するための手立てとして、自己肯定感の向上や「主体的に学習に向かう力」を支える自己指導能力を伸ばしたいと考え、本テーマを設定した。

研究の実際

7月1日 前期課程人権教室(わたし・ぼくをみつめよう、子どもの権利)
職員研修(子どもの権利条約について)
社会教育学級(みんなで進める人権教育)
9月30日 研究授業・授業研究「2年:国語」
(共通実践事項を踏まえた授業)
10月20日 授業参観及び研究討議(オンライン)
12月2日 後期課程人権教室(子どもの権利)
職員研修(次年度計画に関するグループワーク研修)

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□ 人権教室

県教育庁人権同和教育課から講師を招き、全学級で発達の段階に応じた人権教室を実施した。「子どもの権利条約」についての理解を深め、自分や他人の思い、権利(自由, 安心, 安全, 自信)を大事にする必要性を学ぶことができた。



【人権教室（2年生）】

□ 職員研修の充実

「失敗は成功のもと」「違いは豊かさ」というキーワードを意識した授業づくりの研修を推進し、授業改善に向けた取組ができた。

□ スピーチ朝会、「心の花」の取組

月に一回、担当の児童生徒が全員の前で自分の考えを発表するスピーチ朝会後に、「心の花」という児童生徒のよい所を褒め、日頃の感謝の気持ちを全員で伝える取組を行っている。児童生徒が主体的に取り組んでおり、自己肯定感の向上につながっている。



【スピーチ朝会】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題(子どもの変容, よかったこと, 今後やってみたいこと)

- 「失敗は成功のもと」「違いは豊かさ」のキーワードを意識した授業を展開したことで、児童生徒のつぶやきや意見を尊重し、心理的安全性が保たれた授業の雰囲気づくりができた。
- 職員研修を通して、「問い返しから広げ・深める」発問に留意した授業実践に取り組むことができた。
- 児童生徒の変容から、人権教育の推進が自己肯定感や本校で進める自己指導力向上に有用であることが実感できた。今後は、授業づくりだけでなく、人間関係づくりや環境づくりも視野に入れた取組へと広げていきたい。